

9月（口加だより巻頭言）

「桃太郎」

むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんは山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくに行きました。

日本昔話「桃太郎」の冒頭です。おじいさんとおばあさんに大切に育てられ、自分でも日本一力が強いと思った桃太郎は、いつかその力をみんなの役に立てたいと思うようになります。そして、遠い海の果てにある鬼が島に住む鬼を退治することを決意します。桃太郎、十五歳の時です。犬、サル、キジをお供に連れて、鬼ヶ島へと向かっていく途中、広い海に出ます。桃太郎とお供のものたちは近くにあった船に乗り込みます。それぞれが役割を分担し、犬は舟をこぎ、サルはかじを取り、キジは船のへさきで物見をします。鬼ヶ島に到着し、いよいよ鬼退治です。鬼たちは太い鉄の棒を振り回しながら桃太郎に襲いかかります。キジは空から鬼の目を突き、犬は鬼の向うずねにかみつ、サルは鬼の体に飛び乗って顔を引っかき、最後は桃太郎が自慢の力で鬼を投げ飛ばします。こうして桃太郎たちは次々と鬼を倒していくのです。

なぜ、桃太郎たちは鬼を退治できたのでしょうか。桃太郎が四人でかかっても鬼は退治できなかつたでしょう。桃太郎一人と犬三匹でも、桃太郎一人とキジ三羽でも鬼は退治できなかつたはずです。桃太郎、犬、サル、キジにはそれぞれ個性があり、長所（強み）があります。みんなで一致協力し、その長所を存分に発揮したからこそ鬼を退治できたのです。桃太郎を読み返してみると、様々な大切なことを私たちに教えてくれます。立志すること、課題解決のため協働で事に当たること、違いを認め、多様性を尊重すること、個性（長所）を生かすこと、人の役に立つこと……。

桃太郎軍団と同様、多様な個性がそれぞれの良さを発揮し、助け合い、支え合いながら成り立っているのが社会です。どこを切っても同じ顔が出てくる金太郎あめのような人ばかりでは社会はうまく回らないのです。教育とは、個々の生徒の良さ（可能性）を見抜き、引き出し、磨き上げる営みです。学校とは、違う個性を持つもの同士が互いに認め合い、高め合う場所です。口加高校は多様な個性が集まり、互いに切磋琢磨する学校でありたいと思います。時代は令和。創造の時代です。力を合わせて、よき世を創りたい・・・ 令和元年度後半も宜しく願いいたします。

「口加高校 いざ、新時代へ！ 「私」を咲かせたい だから、口加」

